

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 統括 CL 千賀、SL 田中、松井、大塚、CL 大石、SL 保木本、生田、西

2. 山城／ルート 阿弥陀南陵・赤岳

3. 交通手段 自家用車

## 4. 行動記録

<入山日 2014 年 1 月 11 日。 下山日 2014 年 1 月 13 日>

1/10 西宮 21:30 出発=美濃戸口 2:30 着

1/11 6:00 起床=舟山十字 7:45 発-8:43 小屋跡 9:00-11:55 立場山 12:05-  
青ナギ 12:50-発 14:20 着 P1/P2 コル テント泊

1/12 3:30 起床-6:45 発-7:23 P3 基部 9:20 P4 基部 10:05 阿弥陀岳頂上 10:11 発  
11:15 中岳沢のコル 12:12 -12:45 行者小屋 13:05 赤岳鉱泉 13:31 着

1/13 赤岳鉱泉 7:00 = 8:21 美濃戸口 8:50 船山十字 諏訪湖 SA にて温泉  
=17:00 西宮帰着

## 5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

1/12 体調不良者（風邪）を生じたため 阿弥陀岳登頂後中岳沢を下り赤岳鉱泉へ向かった。（中岳沢上部でシャベルコンプレッションテスト実施。）

b) 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか？

発生した場合、具体的に記す

特になし。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

P4 のトラバースでザイルを出す必要があったかもしれない。

## 5. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

全体に積雪は少ないがさらさらの積雪があり、稜線でも多少のラッセルが必要な状況。ザイルは P3 の 2 ピッチと阿弥陀岳からの下りの 1 ピッチで確保を行った。各日の行動とルート状況について下記に記す。

1/10 美濃戸口の小屋で仮眠する予定でだったが、満室で入りづらい状況であった。このため車中で仮眠した。

1/11 船山十字に駐車車両はなく、1 人用テントが 1 張りだけであった。登山中一人しか会うことなく静かであった。（この方は青ナギの先でテ泊された。）

青ナギより先はトレースが薄く、つぼ足で膝程度のラッセルが必要。

P1-P2 のコルまでアイゼン付けることなく到着。

テント設営後、P3 通過の段取りの確認を実施した。

ン

1/12 アイゼン付け登攀開始。先の単独者と3名の学生パーティーと相前後し  
出発。学生パーティーは、朝2時に船山十字を出て1日で御小屋尾根  
を下山するとのこと。P3の待ち時間はこの学生パーティーのみ。  
無線(3台)を使用し各支点間で情報共有をおこない、安全と時間短縮が  
できた。P3登攀中に2名パーティー(確保なし)に追い抜かれたが、そ  
の際も無線で状況確認ができ安全に交錯できた。

P3の1ピッチ目、60Mザイルを準備したが、先行学生パーティーが我が  
予定したポイントより手前でピッチを切ったため、せつかくの60Mザイ  
ルを生かし切れなかった。(通常は50Mザイルなので先行者が途中で切  
っているのは当然のことであったが、気づけなかった。)このため、P3  
の2ピッチ目は、もう少し上までザイルを伸ばしておきたい処の立木で  
終了点とした。

P3残置支点は、下部(0M)・約20M(左/スリング)、約30M(中央/リン  
グボルト)、約60M(中央岩の下部/リングボルト)、約80M以降立木が  
ありどこでも確保可能。

P4トラバースと阿弥陀岳を経て中岳沢の科尔までのルートは、  
前回・前々回とも確保が必要かと思われる箇所は全くなかったが、  
今回露岩が多く雪が柔らかい為、微妙な箇所があった。ガバが解ればな  
んて事なし。

ルートを通じてある程度(7-10M/s程度)の風があったが、阿弥陀岳を越  
えると風もなく温か。体調不良者が1名生じたため中岳沢の科尔で行動  
予定を打ち合わせし、中岳沢を下ることとした。行者小屋で再度状況を  
確認。このまま北沢を下山したいとの意見もでたが、赤岳組との交流の  
ため、この1名を赤岳鉱泉泊とすることを確認・決定した。

赤岳鉱泉では、体調不良者は小屋泊とし、その他のメンバーは一つの  
テントに集まり交流会実施。

報告者氏名 千賀 義一 2014年3月25日